



浜松市

平成23年度 外部評価資料

資料番号	事業名	所管課
3-7	花と緑のまち・浜松推進事業	緑政課

事業シート3

課コード: 002205000
 担当組織: 緑政課

作成日: 平成23年5月30日
 責任者: 永田正之

基本政策	課	政策	目	事業
計画コード 12	01	0211	01	021103

款	項	目	事項
予算コード 36	26	41	16

款	項	目	事項

事業名: 花と緑のまち・浜松推進事業

事業費 (予算) (単位:千円)	22年度	23年度	比較	人工 (正規職員) (単位:人)	22年度	23年度	比較
	85,834	84,582	△ 1,252		4.9	4.9	0.0
23年度 事業費内訳 (単位:千円)	需用費	委託料	工事請負費	公有財産購入費	負担金補助 及び交付金	扶助費	その他
	18,851	51,691	1,270		10,600		2,170

◆事業の目的

花と緑のまち・浜松を推進するため、各種啓発事業の開催やボランティアへの支援を実施するとともに、花壇等の整備及び維持管理を行う。

◆事業内容(平成23年度に何をやるか)

「花と緑のまち・浜松」推進市民協議会が花と緑のまち・浜松の実現に向けて、活動内容、役割分担、目標数値、目標達成期限を明確にするためにまとめた「活動指針」を骨子として、行政と市民との協働により推進する。

<普及・啓発事業>

花と緑の各種啓発イベントを実施するとともに、オープンガーデン等の市民活動を支援する。

<花づくり支援事業>

地域ごとに特色のある花づくりを支援する地域の花づくり支援事業、ボランティアの協力により公民館等を花で飾る花いっぱいコミュニティ事業、市民との協働により沿道花飾りを実施する花いっぱい運動の実施により、花と緑のまち・浜松を推進する。

<花壇等拠点整備事業>

市役所本庁舎をはじめ、JR浜松駅前及び駅周辺、主要幹線道路、地域拠点等にシンボル花壇を設置し、花壇及びフラワーポット等の維持管理を実施する。

<モザイカルチャー推進事業>

浜名湖立体花博を一過性のものとしないうちに、新たな園芸芸術であるモザイカルチャーの普及を目的として市民を対象とした制作講座を実施するとともに、JR浜松駅前にモザイカルチャー(出世大家康くん)を設置する。

◆これまでの取組状況(平成22年度に何をを行い、その結果はどうだったか)

<普及・啓発事業>

春の都市緑化祭、浜松花と緑の祭など花と緑の各種啓発イベントや、講習会・講演会の実施、オープンガーデン等の市民活動に対する支援により、(市域全体に存する市民団体・ボランティアを中心とした)花と緑のまちづくり活動の普及・啓発を図ることができた。

<花づくり支援事業>

市民、市民団体の活動をより活発化するよう、花の種、苗や球根、園芸用資材を安定的に供給し、地域における花づくり事業や、公共施設及び沿道の花飾り事業を促進し、市域全体に花いっぱい市民活動を展開することができた。

<花壇等拠点整備事業>

市役所本庁舎をはじめ、JR浜松駅前広場及び周辺の花壇、中心市街地の道路植栽部分へのスタンド式フラワーポットなどにより、花と緑に彩られた潤いのある都市空間を形成するとともに、市民をはじめ市外からの来街者に「花と緑のまち・浜松」をアピールすることに貢献した。

<モザイカルチャー推進事業>

JR浜松駅前にモザイカルチャー(ウナギイヌ)を設置し、日本におけるモザイカルチャー発祥の地をアピールした。また、市民を対象とした制作講座を実施し、受講生とともに制作したモザイカルチャーを浜松花と緑の祭(10月)会場に展示し、普及啓発に効果をもたらした。

開始年度	終了予定年度	事業の性格分類	根拠法令等					
昭和 31 年	年	自治事務						
会計区分	戦略性	マニフェスト	事業の特徴	施設管理	指定管理	受益者負担	補助金	市民協働
一般会計	重点戦略			○				○
行革審答申	外部評価	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
	*H20は事業仕分け							

(単位:千円)		H22	H23	H24計画	H25計画	H26計画	H23~26計
事業費	予算	85,834	84,582	84,582	84,582	84,582	338,328
	決算	75,157					0
財源内訳	国・県支出金						0
	市債						0
	その他						0
	一般財源	85,834	84,582	84,582	84,582	84,582	338,328
	*一般会計繰入						0
人件費(報酬等)		85					0
人件費		39,200	39,200	39,200	39,200	39,200	156,800
内訳	人工(正規)	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	—
	人工(非常勤)						—
	人工(再任用)						—
年間経費(事業費+人件費)		125,119	123,782	123,782	123,782	123,782	495,128

成果指標1 ボランティア活動会員数		単位	H22	H23	H24	H25	H26
種類	アウトプット(活動指標)						
	目標	人	9,200	9,400	9,600	9,800	10,000
	実績	人	9,111				

成果指標2 スポンサー花壇の設置数		単位	H22	H23	H24	H25	H26
種類	アウトプット(活動指標)						
	目標	個所	60	60	60	60	60
	実績	個所	13				

◆事業の成果(平成22年度末時点での目的の実現状況 ※活動ではなく状態)

平成16年11月29日の浜松市民意見交換会を経て、平成17年1月29日に「花のまち・浜松推進市民大会」を開催し「花のまち・浜松」アピールを採択した。平成17年3月には「花のまち・浜松」基本構想を策定し、平成17年4月26日に花や緑に関する専門家や市民の参加により「花のまち・浜松」推進市民協議会を立ち上げ、平成18年3月に活動内容、役割分担、目標数値、目標達成期限を明確にした活動指針を策定し4つの分科会活動に着手した。その後、平成18年4月1日に「花と緑のまち・浜松」へ名称を改め、平成19年6月11日には、合併前の12市町13花の会が集まり、「浜松市花の会連絡協議会」を設立し、市域全体に存する市民団体・ボランティアを中心に活発な活動を展開した。

◆評価(平成22年度事業の評価)

(1) 必要性: 継続

(理由)

花のまちづくりは、市民協働事業の中でも活発な活動をしており、市域全体に及ぶボランティア組織は、日々の活動を通じて、花と緑のまち・浜松を推進している。市民生活の良好な環境の確保と地域コミュニティ形成の中核を成している。

(2) 実施主体: 市

(理由)

「花と緑のまち・浜松」活動指針において、行政との役割分担を明確にしており、市が実施主体となって市民協働事業を推進する必要がある。

(3) 選択と集中 現状

(理由)

市民の日常生活を豊かにし、かつ市の産業振興にも寄与する継続的市民協働事業であり、資源の集中が必ずしも効果の拡大につながらない。

(4) 改善: その他改善

(理由)

市民団体の高齢化への対応とともに、参加者の拡充に向け、組織運営の活発化を図る必要がある。

今後の方向性 改善

「浜松市花と緑の連絡協議会」を中心に全市的な取組みを充実するよう、協議会内の連携強化を図るとともに、高齢化対応として市民及び花・緑の生産、流通、小売関係者の参加を求め、市民活動の拡充を図る。

◆改革・改善(評価を反映して何を見直したか)

(1) これまでに実施した改革・改善(平成23年度予算で反映したものを含む)

- ・H21年度 企業展示花壇18箇所、パートナー展示花壇32箇所
- ・企業展示花壇は景況の低迷期にあり不安定な状況である。
- ・パートナー花壇の位置づけが不明確な状況である。
- ・企業展示花壇・パートナー花壇ともに、前年度から引続き概ね同様の企業・市民団体が継続して活動しているが、展示箇所の工事による展示の中断や事業者の移転などにより2箇所減の状況にある。また、新規協力者の公募に努めているところである。
- ・企業展示花壇 20箇所
- ・パートナー展示花壇 40箇所

(2) 今後の改革・改善計画(いつまでに何をどう見直す)

- ・企業及び商店街等地元組織が維持管理する「企業展示花壇・パートナー展示花壇(地元組織参加型花壇)」をスポンサー花壇として募集し、それぞれの維持管理活動を通して、市民協働によるまちづくりを推進し、魅力ある都市空間の形成と市民の花と緑に対する意識高揚を図るとともに、維持管理に係る経費削減を図る。
- ・企業、市民の花と緑に対する意識高揚を図る。
- ・毎年60箇所をスポンサー花壇とする目標を設定する。

補足シート3-①

	款	項	目	事項
予算コード	36	26	41	16 06

事業名：普及・啓発事業

事業費 (予算) (単位:千円)	22年度	23年度	比較	施設管理	指定管理	受益者負担	補助金	市民協働
	14,275	16,180	1,905					○
23年度 事業費内訳 (単位:千円)	需用費	委託料	工事請負費	公有財産購入費	負担金補助 及び交付金	扶助費	その他	
	2,016	2,700			10,600		864	

◆事業内容(平成23年度に何をやるか)

- ・花・緑タウンフェアin浜松の開催
- ・春の都市緑化フェアと浜松花と緑の祭2011の開催
- ・オープンガーデンの育成、オープンガーデンフォーラムの開催
- ・花いっぱいコンクールの開催
- ・中心市街地花飾り実践講習会の開催
- ・公共花壇フォーラムの開催
- ・全国都市緑化フェアへの出展

◆これまでの取組状況(平成22年度に何を行い、その結果はどうなったか)

花と緑の各種啓発イベントや講習会・講演会の実施、オープンガーデン等の市民活動への支援により、市域全体に存する市民団体・ボランティアを中心としたまちづくり活動の普及・啓発を図ることができた。

補足シート3-②

	款	項	目	事項
予算コード	36	26	41	16 11

事業名：花づくり支援事業

事業費 (予算) (単位:千円)	22年度	23年度	比較	施設管理	指定管理	受益者負担	補助金	市民協働
	19,441	19,468	27					○
23年度 事業費内訳 (単位:千円)	需用費	委託料	工事請負費	公有財産購入費	負担金補助 及び交付金	扶助費	その他	
	15,748	2,503	270				947	

◆事業内容(平成23年度に何をやるか)

- ・苗木や球根の交付
- ・園芸資材の交付
- ・地域の花づくり拠点となる育苗ハウスの維持管理

◆これまでの取組状況(平成22年度に何を行い、その結果はどうなったか)

「花と緑のまち・浜松」を推進するため、市民、市民団体の活動をより活発化するよう、苗木や球根、資材を安定的に供給し、地域における花づくり事業や、公共施設及び沿道の花飾り事業を促進し、市域全体に花いっぱい市民活動が展開された。

補足シート3-③

	款	項	目	事項	
予算コード	36	26	41	16	16

事業名：花壇等拠点整備事業

事業費 (予算) (単位:千円)	22年度	23年度	比較	施設管理	指定管理	受益者負担	補助金	市民協働
	45,118	43,718	△ 1,400	○				○
23年度 事業費内訳 (単位:千円)	需用費	委託料	工事請負費	公有財産購入費	負担金補助 及び交付金	扶助費	その他	
	953	41,737	1,000				28	

◆事業内容(平成23年度に何をやるか)

- ・市役所花いっぱい運動(市役所前花壇の維持管理)
- ・花壇、フラワーポットの維持管理(浜松駅周辺公共空間等)
- ・フラワーロード事業(フラワーポットの維持管理)
- ・シンボル花壇の整備(ゆりの木通り・池町通り)
- ・モザイカルチャーの設置(会場修景花壇)

◆これまでの取組状況(平成22年度に何を行い、その結果はどうなったか)

JR浜松駅前広場及び周辺の花壇、中心市街地の道路植栽部分へのスタンド式フラワーポットなどにより、花と緑に彩られた潤いのある都市空間を形成するとともに、市民をはじめ市外からの来街者に「花と緑のまち・浜松」をアピールすることに貢献した。

補足シート3-④

	款	項	目	事項	
予算コード	36	26	41	16	26

事業名：モザイカルチャー推進事業

事業費 (予算) (単位:千円)	22年度	23年度	比較	施設管理	指定管理	受益者負担	補助金	市民協働
	7,000	5,216	△ 1,784					○
23年度 事業費内訳 (単位:千円)	需用費	委託料	工事請負費	公有財産購入費	負担金補助 及び交付金	扶助費	その他	
	134	4,751					331	

◆事業内容(平成23年度に何をやるか)

＜モザイカルチャー推進事業＞
新たな園芸芸術であるモザイカルチャーの普及を目的として市民を対象とした制作講座を実施するとともに、JR浜松駅前にモザイカルチャー(出世大名家康くん)を設置する。

◆これまでの取組状況(平成22年度に何を行い、その結果はどうなったか)

＜モザイカルチャー推進事業＞
JR浜松駅前にモザイカルチャー(ウナギイヌ)を設置し、日本におけるモザイカルチャー発祥の地としてアピールするとともに、市民を対象とした制作講座を実施し、その成果として、秋の都市緑化祭会場にモザイカルチャーを展示し、普及啓発に効果をもたらした。

論点シート

事業番号	3 - 7	事業名	花と緑のまち・浜松推進事業
部局	公園緑地部	所管課	緑政課
H23 予算	84,582 千円	所管課	改善（その他）
H22 予算	85,834 千円	一次評価	
評価対象事業についての論点等			
<p>《普及・啓発事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国都市緑化フェアに出展する意義、効果は何か、誰に何をアピールしたいのか、負担金の額は妥当か ・その他の各種イベントの費用対効果は妥当か 			
評価対象事業についての二次評価			
<p>【改善（その他）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントの費用対効果を検証し、資源の選択と集中を図るべき 			